

老健

全 国 老 人 保 健 施 設 協 会 機 関 誌

平成21年
Vol.20 No.1

4 月号



特集
第11期
執行部が始動

平成21年度介護報酬改定説明会を開催

実践講座●研究発表のスキルアップ 第3回

大河内二郎 介護老人保健施設電問之郷 施設長



老健施設で働き1年半。「もうこの年だから、好きなように食べたい、食べさせてあげたい」。利用者や家族から、ときおりそのような声を聞きます。長年の食習慣を今さら変えても数年寿命が延びるだけ、好きなものが食べたい、と。

正しい食生活のあり方や栄養改善の必要性を学び、積極的な栄養ケアをイメージしてきた私に突きつけられた“生の声”に、当初は戸惑いました。「利用者の残りの人生をより充実したものにするには？」と考えたとき、栄養状態や病状を重視した栄養ケアと、食べることを楽しんでもらうことのバランスが取れないときがあります。

ほのぼの苑(秋田県)

栄養

例えば食事量の少ない方、低栄養

の方に対し無理に食べさせてはいないか、減量や食事制限が必要な方に対し頭ごなしに「食べてはだめ」と言っていないか。栄養管理をすることだけにしぼられず、利用者の目線に立った栄養ケアができているかと、自問自答する毎日です。

老健施設は療養やリハビリの場であると同時に、利用者の生活の場です。何をもって“よい栄養ケア”とするかは、その方によって異なってくるのです。

「食べること」が単なる栄養補給ではなく、生きる楽しみや喜びとなるよう、利用者一人ひとりと向き合い、そして「自分にできることは何か」を考えることのできる栄養士でありたいと思っています。

「食べること」が楽しみや喜びとなるように